

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農地費 目：農地事業諸費

事業名 飛騨エアパーク管理運営費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農地整備課 事業管理係 電話番号：058-272-1111(内4236)

E-mail：c11431@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 8,905 千円 (前年度予算額：8,845 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	8,845	0	0	4,848	6	0	216	0	3,775
要求額	8,905	0	0	4,848	6	0	277	0	3,774
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

県の行政財産である飛騨エアパークを維持管理するために、所要の経費が必要である。近年、農産物空輸回数は減少傾向にあり、防災活動やグライダーなど多面的利用が中心となっている。

・農産物空輸回数

R2年度：1回、R3年度：0回

・防災活動やグライダーなどの多面的利用

R2年度：433回、R3年度：240回

(2) 事業内容

飛騨エアパークの管理運営を行う。本施設は農道離着陸場と防災ヘリポートからなる行政財産であり、農産物空輸や防災活動の他にグライダーなど多目的に利用されている。

① 施設管理委託

管理運営の一部を外部へ委託する。

② 多面的活用推進

県有財産の休日利用を図り、多面的利用を推進する。

③ その他

管理運営に必要な光熱水費等。

(3) 県負担・補助率の考え方

県 100%

(4) 類似事業の有無

なし

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	42	関係機関との打合せや現場確認に要する交通費
需用費	946	施設管理に要する光熱費等(吹流し、消火器の更新含む)
役員費	354	管理棟で使用する電話料等
委託料	7,563	管理運営に関する外部委託
合計	8,905	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

○長期構想

1 新たな「成長・雇用戦略」の展開

(2) 未来につながる農業づくり

(2) 後年度の財政負担

今後も維持管理に経費が必要である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 飛騨エアパークを適正に運営管理し、施設の有効かつ円滑な利用に努めます。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

農道空港の維持管理に要する定型的な経費であり、指標を設定できない。

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・取組内容と成果を記載してください。 (1) 利用状況（令和2年度実績） <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>農産物空輸等</td> <td style="text-align: right;">5回</td> <td rowspan="4" style="vertical-align: middle;">（うち空輸1回、農作業4回）</td> </tr> <tr> <td>防災活動</td> <td style="text-align: right;">12回</td> </tr> <tr> <td>多面的利用</td> <td style="text-align: right;">421回</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: right;">438回</td> </tr> </table> (2) 利活用検討会の開催 令和2年6月に開催（参加：関係市町村等9機関） 飛騨の農産物のPRを目的として、京阪百貨店で開催される「飛騨フェア」に向けて、9月12日に農産物を空輸。9月13日は天候不順のため空輸は行わず、陸送に切り替えた。一方、防災活動やグライダーなどの多目的利用が増加していることから、関係機関と意見交換を行い、より効果的な施設の活用方法を検討している。 <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>	農産物空輸等	5回	（うち空輸1回、農作業4回）	防災活動	12回	多面的利用	421回	計	438回
農産物空輸等	5回	（うち空輸1回、農作業4回）								
防災活動	12回									
多面的利用	421回									
計	438回									
令和 3 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等） (1) 利用状況（令和3年度実績） <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>防災活動</td> <td style="text-align: right;">22回</td> </tr> <tr> <td>多面的利用</td> <td style="text-align: right;">218回</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: right;">240回</td> </tr> </table> (2) 利活用検討会の開催 令和2年11月に開催（参加：関係市町村等9機関） <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>	防災活動	22回	多面的利用	218回	計	240回			
防災活動	22回									
多面的利用	218回									
計	240回									
令和 4 年度	<p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>									

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない	
(評価) 2	飛騨エアパークは県行政財産であるため、県の関与は不可欠であり、事業の必要性は高い。
・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	施設が適正に運営管理され、多くの利用がある。 令和元年度 : 752回 (うち農産物空輸は0回) 令和2年度 : 438回 (うち農産物空輸は1回) 令和3年度 : 240回 (うち農産物空輸は0回)
・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている	
(評価) 2	農道離着陸場とヘリポートを一体的に管理するとともに、日常管理を(一社)飛騨エアパーク協会に委託し、管理の効率化を図っている。

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 高速道路網の整備や保冷技術の向上等、社会情勢の変化や技術革新により、大量に鮮度を保ったまま農産物の陸送が可能となり、農産物の空輸が減少している。一方、防災活動やグライダーなどの多目的利用が増加しており、今後の施設の利用及び運営管理について検討する必要がある。
--

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 飛騨エアパークは岐阜県災害時広域受援計画において飛騨圏域の広域防災拠点に指定され、また、中部圏で東南海トラフ巨大地震などの大規模災害が起きた場合の後方支援基地となる広域防災拠点に位置づけられるなど、大規模災害時の広域防災拠点としての役割が大きくなっている。今後は、災害時にも対応可能な施設の運営管理体制の整備に取り組んでいく必要がある。
--

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	
補助事業者 (団体)	(理由)
補助事業の概要	(目的) (内容)
補助率・補助単価等	定額・定率・その他 (例: 人件費相当額) (内容) (理由)
補助効果	
終期の設定	終期〇〇年度 (理由)

(事業目標)

・ 終期までに何をどのような状態にしたいのか

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

補助金交付実績 (単位: 千円)	R元年度	R2年度	R3年度

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	・取組内容と成果を記載してください。
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和3年度	
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価)	
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)	
(評価)	
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価)	

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか
--